

# 因島業界動向

2022年4月～6月

(令和4年4月～6月)

因島商工会議所

## 【因島経済動向調査(DI方式)報告】

(調査の概要)

1. 調査方法 FAX送信によるアンケート調査(景気観測調査の回答使用)
2. 調査内容 ①景況のほか、生産額・売上額など6項目について、令和4年6月の状況と前年同月調査との比較  
②同一項目における令和4年7月～9月の先行き見通し
3. 調査時期 6月初旬～下旬
4. 調査対象 51社(製造業：17社 非製造業：34社)
5. 回収状況 回答 38社(製造業：17社 非製造業：21社)  
回答率 74.5%

DI：各調査項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準に、プラスの値は景気の上向き傾向（「良い」）をあらわす回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向（「悪い」）をあらわす回答割合が多いことを示す。

DI = (増加・好転など「良い」の回答割合) - (減少・悪化など「悪い」の回答割合)

※注 原材料・商品仕入価格：DI = (下降) - (上昇)

製品・商品在庫：DI = (不足) - (過剰)

従業員：DI = (不足) - (過剰)

### ～因島景況の総括 令和4年6月期～

全業種DI(良い-悪い)は、▲26(前回3月調査▲29、R3.6月調査▲61)で前回調査から比較すると+3ポイントとなった。

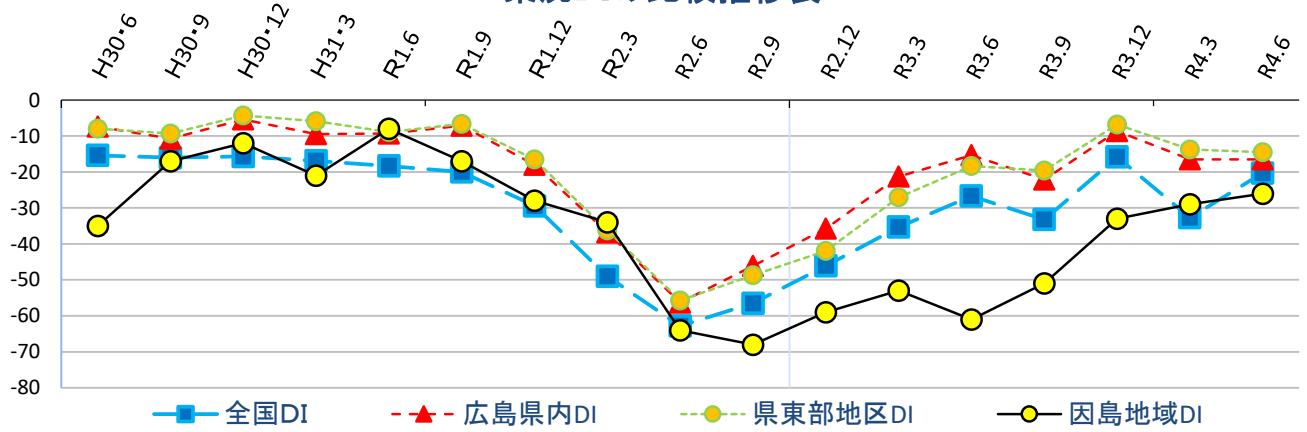
製造業では、船舶造修：0(前回3月調査▲20)と前回調査比で+20ポイント。その他機械金属：▲20(前回3月調査0)で、製造業DIは▲17(前回3月調査▲18、R3.6月調査▲43)と+1ポイントとなった。

非製造業では、建設業：▲25(前回3月調査▲25)、卸売業：▲50(前回3月調査▲40)、小売業：▲33(前回3月調査▲67)、運輸・サービス業：▲25(前回3月調査▲39)で、非製造業DIは▲33(前回3月調査▲36、R3.6月調査▲73)で前回調査より+3ポイントとなった。

製造業：造船関連では、新規での受注は複数あるものの、修繕部門でドックの空く時期があり、費用削減要求による受注競争は依然として続いている。自動車関連も上海のロックダウンに伴い減産、公共工事関連も受注減となったが、自転車関連は依然好調を保っている。

非製造業：住宅設備機器の入荷が難しくなっている為、受注を取りにくい状況である。飲食、ホテルにおいてはコロナ制限なしの期間となった事もあり、回復となった。

業況DIの比較推移表



### 【令和4年6月期 景況DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.6月》

	好転	横ばい	悪化	DIポイント
<b>全業種(当月)</b>	<b>8%</b>	<b>58%</b>	<b>34%</b>	<b>▲26.0</b>
(前回)	11%	49%	40%	▲29.0
(前年同月)	6%	28%	67%	▲61.0
<b>製造業(当月)</b>	<b>12%</b>	<b>59%</b>	<b>29%</b>	<b>▲17.0</b>
(前回)	13%	56%	31%	▲18.0
(前年同月)	14%	29%	57%	▲43.0
<b>非製造業(当月)</b>	<b>5%</b>	<b>57%</b>	<b>38%</b>	<b>▲33.0</b>
(前回)	11%	42%	47%	▲36.0
(前年同月)	0%	27%	73%	▲73.0

## 【令和4年7月～9月の先行き見通し 因島景況】

全業種DI（良い－悪い）は▲21（前回3月調査▲28、R2.6月調査▲58）と前回調査から+7ポイントの見通しである。

製造業では、船舶造修:+40（前回3月調査▲20）と+60ポイント、機械金属:▲20（前回3月調査0）で、製造業DIは0（前回3月調査▲13、R3.6月調査▲22）で、+13ポイントとなる見通し。

非製造業では、建設業:▲25（前回3月調査▲25）、卸売業:▲67（前回3月調査▲60）、小売業:▲33（前回3月調査▲67）、運輸・サービス業:▲25（前回3月調査▲29）で、非製造業DIは▲38（前回3月調査▲42、R3.6月調査▲55）で+5ポイントの見通しである。

製造業：造船関連は翌期以降の受注は不透明。建造意欲は高まっているが、船価価格の上昇もあり価格変動を踏まえて発注される傾向の為、受注量の大幅増はない。

非製造業：建設業では官公庁、民間ともに受注量は減少の見通しが多く、景況は悪化の傾向。ホテル関係は造船業種の影響もあるが、観光利用が多い事業所は好転の傾向にある。

## 【令和4年7月～9月の先行き見通し 景況DI】

《上段:当月調査分、中断:前回調査分、下段:R3.6月》

	好転	横ばい	悪化	DIポイント
<b>全業種(当月)</b>	<b>8%</b>	<b>63%</b>	<b>29%</b>	<b>▲21.0</b>
(前回)	6%	60%	34%	▲28.0
(前年同月)	6%	47%	47%	▲41.0
<b>製造業(当月)</b>	<b>12%</b>	<b>76%</b>	<b>12%</b>	<b>0.0</b>
(前回)	6%	75%	19%	▲13.0
(前年同月)	14%	50%	36%	▲22.0
<b>非製造業(当月)</b>	<b>5%</b>	<b>52%</b>	<b>43%</b>	<b>▲38.0</b>
(前回)	5%	48%	47%	▲42.0
(前年同月)	0%	45%	55%	▲55.0

### ～因島生産額・売上の総括 令和4年6月期～

全業種DI（良い－悪い）は▲21（前回3月調査▲23、R3.6月調査▲59）で+2ポイントとなった。

製造業では船舶造修:+20（前回3月調査0）、機械金属:▲20（前回3月調査+25）で、製造業DIは▲17（前回3月調査0、R3.6月調査▲29）で▲17ポイントとなった。

非製造業では、建設業:▲25（前回3月調査▲25）、卸売業:▲67（前回3月調査▲40）、小売業:0（前回3月調査▲33）、運輸・サービス業:0（前回3月調査▲57）で、非製造業DIは▲24（前回3月調査▲42、R3.6月調査▲77）で、前回調査から+18ポイントとなった。

製造業：継続的な仕入れ価格の上昇により製品販売価格も上昇をしているが、100%価格転嫁できていない背景もあり今期の指標はマイナスに。

非製造業：卸小売業においては減少傾向にあるが、飲食関係では回復傾向にある。ホテル業界では地域相場の関係もあり値上げに踏み切ることが難しく、全体的に仕入価格上昇による採算面での打撃を大きく受けている。

## 【令和4年6月期 売上DI】

《上段:当月調査分、中断:前回調査分、下段:R3.6月》

	好転	横ばい	悪化	DIポイント
<b>全業種(当月)</b>	<b>16%</b>	<b>47%</b>	<b>37%</b>	<b>▲21.0</b>
(前回)	20%	37%	43%	▲23.0
(前年同月)	8%	25%	67%	▲59.0
<b>製造業(当月)</b>	<b>18%</b>	<b>47%</b>	<b>35%</b>	<b>▲17.0</b>
(前回)	31%	38%	31%	0.0
(前年同月)	21%	29%	50%	▲29.0
<b>非製造業(当月)</b>	<b>14%</b>	<b>48%</b>	<b>38%</b>	<b>▲24.0</b>
(前回)	11%	36%	53%	▲42.0
(前年同月)	0%	23%	77%	▲77.0

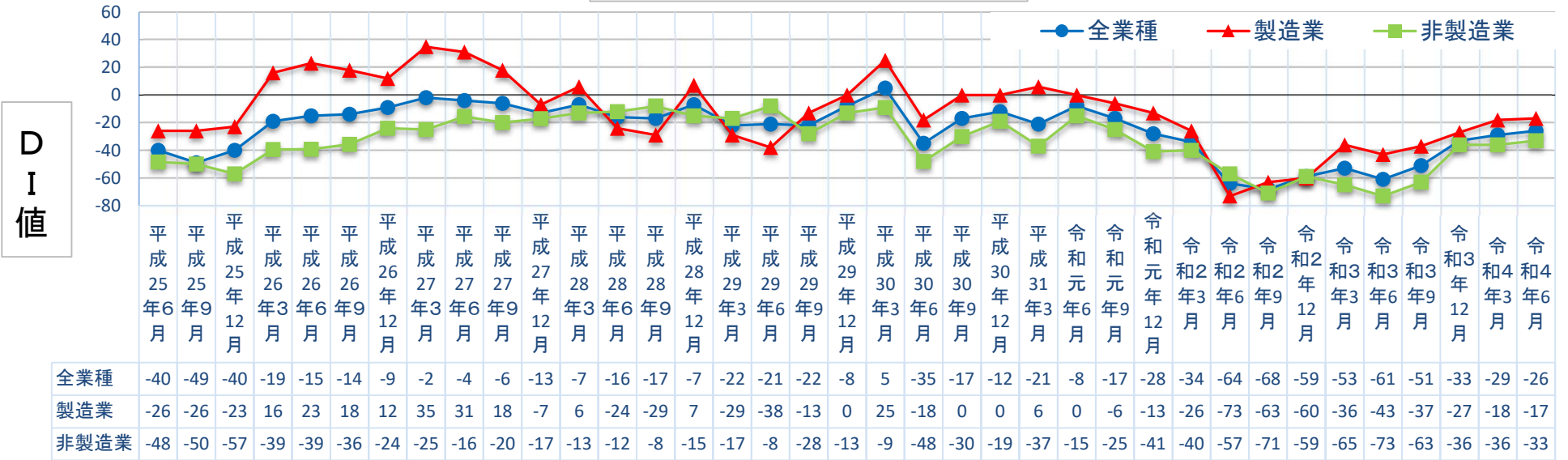
## 【令和4年7月～9月の先行き見通し】

全業種DI（良い－悪い）は▲3（前回3月調査▲18、R3.6月調査▲33）で前回調査から見ると+15ポイントの見通しである。

製造業では船舶造修:+40（前回3月調査▲20）、機械金属:0（前回3月調査+50）で製造業DIは+12（前回3月調査▲12、R3.6月調査▲22）で前回調査より+24ポイントの見通し。

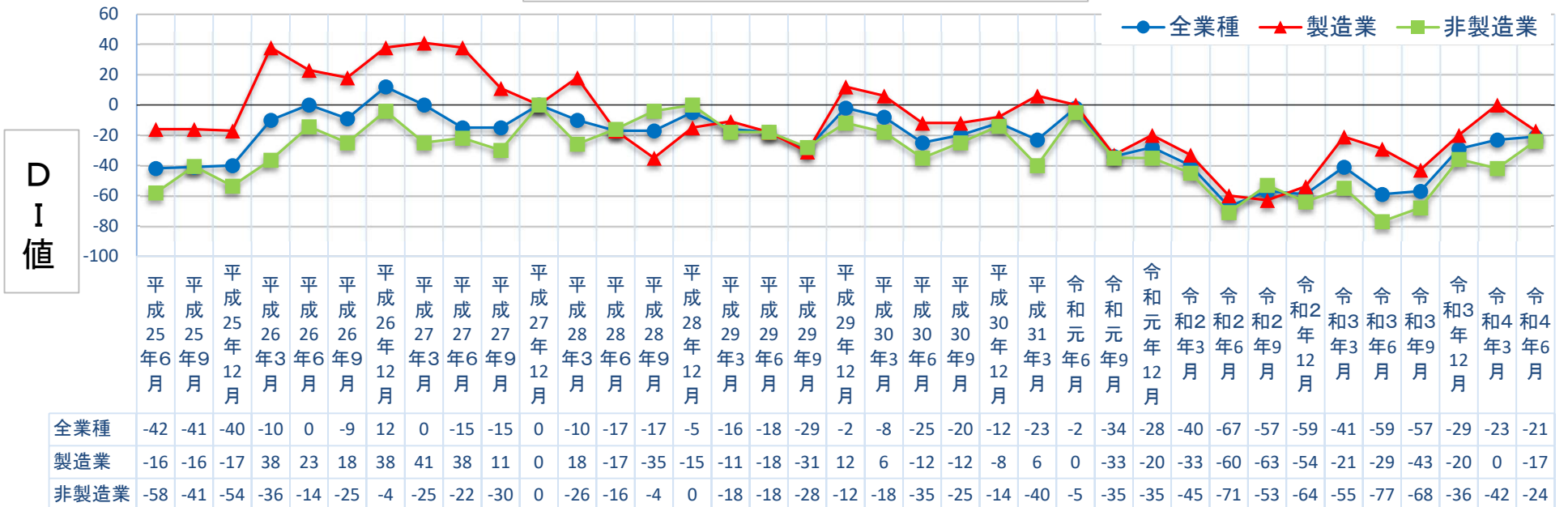
非製造業では、建設業:▲25（前回3月調査0）、卸売業:▲16（前回3月調査▲20）、小売業:0（前回3月調査▲33）、運輸・サービス業:▲13（前回3月調査▲29）で非製造業DIは▲14（前回3月調査▲21、R3.6月調査▲41）と前回調査より+7ポイントの見通し。

### 因島地域の景況感の推移



3

### 因島地域の生産額・売上額の推移



## 2. 【在因島金融機関取扱い(残高)状況】

※令和4年5月末現在

(単位:百万円、%)

項目 年月		残 高 合 計					
		預 金	前年 同月比	貸出金	前年 同月比	預貸率	前年 同月差
R 3 年 度 末		<b>138,465</b>	<b>104.3%</b>	<b>52,814</b>	<b>101.4%</b>	<b>38.1%</b>	<b>-1.2</b>
4 年 度	第1/四期末	138,576	103.1%	52,632	100.3%	38.0%	-1.0

地方銀行2行、信用組合1行、計3行の合計。

## 3. 【企業倒産状況】(負債総額1,000万円以上)

(単位:件、百万円)

項目 年月		倒 産 件 数		負 債 総 額		備 考
		件 数	前年 比 (%)	金 額	前年 比 (%)	
R 3 年 度 総 数		<b>0</b>	<b>0.0</b>	<b>0</b>	<b>0.0</b>	年度計
4 年 度	第1/四期末	0	0.0	0	0.0	

(株東京商工リサーチ広島支社調)

## 4. 【月間有効求人数・月間求職者数・求人倍率】

※令和4年5月末現在

(単位:人、倍)

項目 年月		有 効 求 人 数		有 効 求 職 者 数		有 効 求 人 倍 率		備 考
		人 数	前年 比 (%)	人 数	前年 比 (%)	倍 率	前 年	
R 3 年 度 平 均		<b>2,966</b>	<b>108.7%</b>	<b>2,090</b>	<b>102.3%</b>	<b>1.42</b>	<b>1.34</b>	
4 年 度	第1/四期末	2,699	95.1%	2,112	90.4%	1.28	1.21	

注:新規学卒者を除き、パートを含む。月平均は四捨五入。

(尾道公共職業安定所調)

## 5. 【経営改善資金推薦状況】

(単位:件、万)

年 月	項目	推 薦					決 定			
		件数	前年比 (%)	金 額	前年比 (%)	運 転	設 備	件数	金 額	前年比 (%)
令和3年度		22	61.1	20,480	65.1	17,423	3,057	23	20,680	70.2
4 年 度	第1/四期末	2	28.6	1,800	37.3	1,560	240	2	1,400	27.9

※件数、金額は集計時以降変動する可能性がございます。

(因島商工会議所調)

※令和3年度の決定件数は、令和2年度3月下旬推薦分が1件含まれています。

## 6. 【因島商工会議所会員数】

(単位:者、社)

区 分	3月31日現在 会 員 数	新規 会員数	脱退者数	6月30日現在 会 員 数
法 人	487	2	2	487
個 人	451	14	4	461
合 計	938	16	6	948

※注:組織変更含む

## 7. 【今期のアンケート調査結果】

回答件数:31件

◆先行きの不透明さが増す中、2022年度の各事業所における前年と比較した場合の設備投資の状況について調査を実施したところ、【実施しない・見送る】が13社と前年の10社を超える回答があり、コロナ禍の長期化による減産体制や物価高騰による資金繰りの悪化等により、設備投資の実施が難しい状態が続いている。また同様に【現時点では未定】の回答も11社と、経済活動の回復が見通せない中での設備投資に慎重な体制になっている事業所も多く見受けられた。

